



九条の会. ひがしなだ ニュース

第48号

2014年1月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail youichi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp

私のひとこと

ニュースキャスターたちが法案反対の記者会見をしてからの感があるから、立ち上がりは遅かったとはいえる。しかし、朝日新聞、毎日新聞、(神戸新聞も入れるべきかも) テレビではTBSが、特定秘密保護法の成立後も引き続き廃案を目指す論陣を張っていることは大変大きなことだ。

もう一つは、ほとんど阻止したと言っていい国民的盛り上がりがあって、憲法96条改正の目論みは正面切っては口に出せなくなっている。

この二つと脱原発は世論となりつつあり、国民を勇気づけている。まさに今この時に、全国7500といわれる9条の会がこれらを追い風にふたたび活動を強めない手はないだろう。

2月9日(日)「9条全県交流会(仮称)」が開かれる。休業中の9条の会も秘密保護法廃案の活動に取り組み、確固とした世論にしなければならない。

(九条の会. ひがしなだ 呼びかけ人 中島淳)



8周年記念講演・総会を成功させよう! 2月23日 東灘区民センターで



2月23日(日)、13時半(開場13時)から東灘区民センター第1・2会議室(8階)で「九条の会. ひがしなだ」の8周年記念講演会・総会が開かれます。記念講演会の講師は、前泊博盛さん(沖縄国際大学教授・元琉球新報論説委員長)で、演題は「知ってはいけない! 本当の日本の憲法、人権、安保、民主主義の現実」です。厳しい沖縄の現実を踏まえて、「1951年のサンフランシスコ講和条約で日本は本当に主権を回復したのでしょうか?、日本には真の民主主義が根付いていたのでしょうか?、日米安保は、何から何を守っているのでしょうか?、憲法は本当に守られているのでしょうか?」といったことを、鋭く問いかけられる予定です。

昨年12月27日に、沖縄県知事は、安倍政権が申請していた名護市の辺野古に新基地を建設するための公有水面の埋め立てを承認しました。安倍政権と自民党は、沖縄県選出の国会議員と自民党県連の「普天間基地の県外移設」の公約を強い圧力をかけて撤回させ、新基地容認に転じさせて外堀を埋めた上で、沖縄振興費などの「札束」で知事に圧力をかけて、「県外移設」を公約しにて当選した知事に埋め立てを承認させてしまいました。

普天間基地の撤去と辺野古への移設反対の圧倒的多数の沖縄県民の民意を踏みにじて、どうしてこうしたことがまかり通ってしまうのでしょうか?。前泊さんは、その間の事情について、「本当は憲法より大切な『日米地位協定』という本の中で、大略次のように述べています。

「1951年にサンフランシスコ講和条約が結ばれ形の上では日本は独立国になったことになっていますが、同時に日米安保条約とそれに伴う日米行政協定が締結され、米軍は日本中のどこにでも基地を持つことができるようになり、駐留軍はそのまま日本に居座りました。1960年の新安保条約締結の際は、日米行政協定と同じ内容が日米地位協定に引き継がれ、戦後70年近く、大量の外国の軍隊が日本に駐留するという異常な状態が続いています。そして、1957年に米軍立川基地の拡張工事をめぐって、反対派のデモ隊が米軍基地の敷地内に数メートル入ったことを理由に、刑事特別法違反で7人が逮捕されたいわゆる『砂川事件』の一審で、『米軍は戦力であるから駐留を認めることは憲法九条二項に反するので違憲である』という有名な伊達判決が出されました。しかし、アメリカから圧力がかかり、高裁を飛び越して最高裁に上告され、最高検察庁はアメリカ国務省の筋書き通りの最終論告を行い、田中最高裁長官はアメリカ国務省の筋書き通りの判決を下しました。その判決の趣旨は、『安保条約の如き、主権国としての我が国の存立の基礎に重大な関係を持つ高度の政治性を有するものが、違憲であるか否かの法的判断は、裁判所の司法審査権の範囲外である』というもので、安保を中心としたアメリカとの条約群が日本の法体系よりも上位にあるという戦後日本の大原則が確定してしまったのです」。

法律の体系に従って行動する日本の官僚は、安保条約を中心とした法体系を通じて示されるアメリカの意向に唯々諾々と従うようになり、権力に群がる政治家たちも同様の無様な状態になりました。現在、日本は先の見えない重苦しい空気に包まれています。その根底には、宗主国であるアメリカの理不尽な要求が日本国内でまかり通るといふ、悲しい現実があります。

よく知られているように、安保条約第10条には、当事国の一方が破棄を宣言すれば、1年後に条約が破棄されるということがうたわれています。もうそろそろ、安保条約とは何なのか、日本に何をもちかしているのかをよく考えて、安保条約を破棄してアメリカと日米友好条約を締結することを公約するような政府を樹立して、明るい日本の未来を切り開くことを真剣に考えるべき時代が近づいているのではないのでしょうか。2月23日の8周年記念講演会・総会には、是非、多くの友人を誘って参加して頂き、共に日本の現状について深く考えようではありませんか。なお、下記の要領で8周年記念講演会・総会の第1回実行委員会を開きます。力を貸していただける多数の方の参加をお待ちしています。 (中村)

8周年記念講演会・総会の第1回実行委員会
1月16日(木)、15:00～、ロイヤル・ホスト

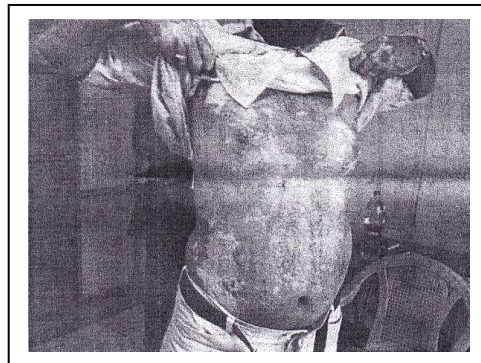
フリー・ジャーナリスト西谷文和さんの衝撃レポート

昨年12月21日、「中島淳の第2回アジト談義」に参加して、12月14日にシリアから帰国したという西谷文和さん(フリー・ジャーナリスト)の衝撃的なレポートを聞きました。

- * プロフィール : 西谷さんは吹田市役所に19年間勤めていました。休暇をとってはイラクその他を訪問して歩き、高遠さんが捕まった時もイラクに滞在していました。自己責任論によるバッシングが始まり、西谷さんも議会で、「公務員がイラクに行くことを認めたのは誰か?」という形で上司が詰問される状態が生じ、市役所をやめて、フリー・ジャーナリストになりました。
- * シリアについて : シリアは中東の真ん中にあり、BC20のアッシリア帝国が起源。その後、オスマントルコが起り、フランスの植民地になり、1946年に独立してシリアが成立。1970年に父アサドがクーデターを起こし政権奪取。2000年に父が死去し、次男のバシシャル・アサドが大統領に。アサドは少数派のアラウィー派で、国民の多数派はスンニ派。アラブの春で民衆が蜂起し、アサドが民衆を虐殺し、内戦状態へ。1日50人が死んでいます。アサド政権支持はロシア、中国、

反アサド支持は米、英、仏。両陣営の産軍共同体による武器の供給をストップできず、内戦が長期化しました。フランスが引く際に、わざと少数派のアラウィー派に武器を渡し軍隊を作りました。その軍隊で政権を奪ったアサドは大国依存。ロシアの思惑は、サウジの天然ガスがヨーロッパに入るのをシリアでストップさせて、ロシアの天然ガスの有利さを確保するため。

- * シリアへの潜入 : トルコからシリアへ潜入しアレッポへ。シリアは地獄。ミサイル 1 発で 150 人が死ぬ。ミサイルは正確に命中する (映像)。老人が命令し、若者が死ぬ。銃を撃つ若者の映像。死者は 12 万人。半年に 5 万人死ぬ。こういった情報を日本のテレビはオン・エアしない。ナダルさんは赤ん坊と妻を失った (映像)。アルカイダも入って来て現在は三つ巴の状況。右の写真は、デモに参加してシリア警察に拘まったモハマドさん (仮名) が、「デモの首謀者は誰だ」と拷問され、ガスバーナーで焼かれた跡。こうした拷問で多くの人が命を落としています。



- * アフガニスタンと劣化ウラン弾 : 戦争で両足を失った母を介護する娘のザイルちゃん (映像) は医者になりたいと言う。難民キャンプは不衛生で (映像)、冬の寒さのため半年で 5 人の子供が死んだ。劣化ウラン弾による先天性異常の子供達、眼球のない子 (映像)、肛門のない子 (映像)、お尻に頭くらいの大きさの腫瘍を持つ子 (映像)。6 人に一人が 1 歳前に死亡。日本はウランをオーストラリアから買っている。天然ウランには U_{235} は 0.7% しか含まれていない。それをアメリカで濃縮して 4% にすると原発の燃料になる。さらに濃縮して 90% にすると原爆の原料になる。その搾りかすが劣化ウラン。その再利用が劣化ウラン弾。ウランは硬いので砲弾の先につけると戦車を貫く。戦争すれば儲かるという産軍共同体が各国にある。その勢力は戦争がしたい。イラク戦争の際、アメリカのテレビで、イラクに侵略されたクエイトの少女がイラク兵が家に乗り込んできて両親を虐殺されたという報道が流され、イラク攻撃へ世論が誘導されたが、後で、この少女はクエイト人ではあるがクエイトへ行ったことがないことがわかり、産軍共同体の情報操作だったことが暴露された。
- * 電気料金の統合原価方式の問題点 : 統合原価方式とは、電力会社がかけたコストの 3% を電気料金に上乗せして良いという方式です。電力会社が原発に大金を投資しても、電気料金で回収可能。
- * その他、橋下の公務員叩きの批判や、イラク戦争で自衛隊が駐留したサマワには日本人が入れない話など、数多くの刺激的な話があった。現場を踏んだ人間が持つ圧倒的な迫力と情報の豊富さ、その原因の説明の明快さ、などなど、多くの刺激を受けました。是非、九条の会、ひがしなだでも講演してもらいたいものだと思います。(中村)

秘密法撤廃で宣伝・署名行動

5日、大丸周辺に100人超が参加

2014 年の九条運動は、年明け早々の 1 月 5 日、午後 1 時から元町・大丸周辺での「特定秘密の保護に関する法律」の撤廃を求める署名・宣伝行動で、勢いよくスタートしました。

憲法改悪ストップ！兵庫県共同センターや兵庫県弁護士 9 条の会など 8 団体が呼びかけたもので、兵庫県各地の九条の会や民主団体などから 100 人を超える人たちが参加して、大いに盛り上がりました。兵庫県弁護士会も協賛。

宣伝カーでは、弁護士を先頭に、藤末衛・民医連会長らの弁士が入れ替わり立ち替わり、秘密法がいかに憲法違反の“欠陥法“であり、国民の人権と暮らしを根本から覆すものであるか、もう廃止しかな

い、と力強く訴えました。

用意した 1000 個のティッシュ付きチラシは、30 分ほどでなくなり、後はチラシ配りと署名、そして看板を掲げての肉声での呼びかけが中心となりましたが、ここで注目を集めたのが、若者が続々と署名していくこと。

芦屋「九条の会」による「国民の目・耳・口ふさぐ 秘密保護法」「止めよう戦争への道 STOP 秘密保護法」と大書した鮮やかな横断幕や「秘密保護法いやだもん 原発情報もかくす」と訴える、“ゆるキャラ”

風の看板が効果的で、東灘にもこうした視覚に訴える宣伝スタイルが求められています。 (田所)



九条の会訪問記 (その24) 9条明舞の会 「慰安婦」「南京大虐殺」など加害の側面も 消費税増税も取り上げ、小回りきかせて

明舞 9 条の会 (正式名称は「みんなで考える 9 条・明舞の会」) は、2006 年 2 月 26 日に結成集会を開き、神戸市の西端・垂水区の明舞ニュータウンを中心に、粘り強い活動を続けています。

共同代表を務める岩村義雄さん (神戸国際教会牧師) によれば、このニュータウン (団地) は 1964 年の開発。JR「朝霧」駅も新設されて、開発面積 197 ヘクタールの地に約 2 万 3000 人が住んでいます。



昨年 11 月 3 日、西区民センターで開催された「神戸憲法集会」に寄せたレポートには、「神戸市垂水区の南多聞台と狩口台 (約 5,000 世帯、有権者約 10,000 人) で活動」と紹介されています。

設立発起人は、平和美術家や障害者施設職員、主婦、青年合唱団メンバーら 15 人。発足以来、年 1 回の総会で 10 名程度の世話人を選出し、世話人代表 (当初 3 名、いま 2 名) と事務局メンバー数名を決めて運営に当たっており、「世話人会の定期開催と突っ込んだ議論によって、会の活動が持続できた」と自己分析しています。

夏のパネル展「平和のつどい」で、

広島での被爆体験」を聞く

講師を招いて講演を聞く「つどい」だけでなく、参

加者の感想・意見・疑問を大切に、次の取り組みに生かしており、この間に取り上げたテーマも、憲法は言うに及ばず、基地、医療、広島・長崎の被爆者、中国残留邦人、災害復興、原子力発電と自然エネルギー、北朝鮮問題など多岐にわたっています。中でも、韓国から元「慰安婦」を招いたり、南京大虐殺など加害の側面をも学ぶなど多面的。行事の案内チラシは全戸配布するなど、地域に根を張った活動を意識的に強めています。

2007 年からは毎年、秋には野外へ出て、兵庫区の戦跡めぐりを皮切りに、姫路の手柄山平和公園、明石の戦跡などを巡り、2012 年秋には、東灘から芦屋へと歩いた史蹟・戦跡めぐりにも参加。可能な限り、地元 9 条の会との交流を試みています。ユニークなのは、岩村代表らの有志が取り組む「日本国憲法、特に 9 条を保持している日本国民に、ノーベル平和賞を」という署名運動。

2013年11月24日の7周年総会で、集団的自衛権のカラクリを学んだ後は、秘密保護法、4月からの消費税増税問題なども取り上げ、「小回りのきく集会を」と、もう一人の世話人代表である広森勝久さん（元神戸大学教員）は、当面の課題を強調しています。

これからの催し物

★★★☆☆ 1月14日（火）～28日（火）

ポエム&アートコレクション2014

会場：神戸文学館（王子動物園西隣、元関西学院チャペル）

主催：兵庫県現代詩協会

出品：戦争追体験の語り部・玉井洋子さんら26人（朗読会もあり）

★★★☆☆ 1月17日（金） 13時半～

阪神・淡路大震災19年メモリアル

主催：復興県民会議

9:00～12:00・ながたメモリアル集会

神戸平和と労働会館（新長田） トランペット演奏／報告／交流／ウォーク

14:00～17:40・講演と文化行事

神戸市勤労会館7階ホール

講演「フクシマはいま」 伊藤達也原発問題全国センター代表委員

福島からの報告・森松明希子さん 復興県民会議からの報告 トランペット演奏・松平晃氏

資料代：¥1000

（連）078-335-3770

★★★☆☆ 1月18日（土）13時半～

ジャーナリスト鳥越俊太郎さん語る 稀代の悪法「秘密保護法」を許さない

主催：「NHK問題を考える会（兵庫）」

場所：神戸文化中ホール

司会：小山乃里子さん

トーク：羽柴修弁護士9条の会事務局長

資料代：¥1000

（連）078-351-0194

★★★☆☆ 2月7日（金）18:30～（開場18:00）

『レーン・宮沢事件』上映&学習会

～この道はいつか来た道：むかし軍機機密法、いま秘密保護法～

主催：市民社会フォーラム

共催：兵庫県弁護士9条の会

会場：こうべまちづくり会館2階大ホール

講師：羽柴 修さん（九条の心ネットワーク事務局長、弁護士）

参加費：1000円

★★★☆☆ 2月9日（日）13:00～

「憲法改正」問題に関する全県交流会

会場：あすてつぷ kobe セミナー室1・2号室（湊川神社西側）

主催：「憲法改正」問題に関する懇談会

内容：情勢報告と交流

- ① 報告 「安倍政権の壊憲路線と私たちの課題」（兵庫県弁護士9条の会 事務局 から）
- ② 9条の会ほか、護憲各団体からの取り組み報告・意見交換・交流